

東山あの人この人

「ハートで作る、ウオルドルフ人形」



◆今熊野学区にお住まいの早川加代子さんはもともと人形好き。ご主人の友人のスウェーデン在住の人から「日本でウオルドルフ人形をひろめるため、興味を持つ人を探しています」と誘われたのがきっかけで、現在ではご自身の人形教室を開設して15年になります。



ウオルドルフ人形とは、20世紀初頭、スイスやドイツで活躍したルドルフ・シュタイナーの教育理論から生まれたもので、羊毛や毛糸などの

自然素材、リフォームした生地などを使用し、温かく肌触りが良く、洗濯もできるので子どもの分身として最高の人形です。早川さんのアイデアで、実際に着ていた服をリフォームして、その子どものために作ることもあるそうです。人形を作りながら豊かな時間を過ごし、さまざまな人と触れ合ううちに、人形には魂が宿り、出来上がった人形は、子どもが話しかけたり一緒に眠ったりして喜びや悲しみを共有し、作る人と手にする人、両方をとてもハッピーな気持ちにしてくれると、その魅力を語る早川さん。お母さんやおばあさんが心を込めて作った人形は、子どもが遊んでいるうちに手垢(てあか)で汚れてきますが、一緒にいる時間が長ければ長いほど、愛情が増し、いつそう大切なものになるでしょう。技術だけではなく、ハートで作るウオルドルフ人形。これからも早川さんのウオルドルフ人形をひろめる旅は続きます。たくさん笑顔に出会うために・・・

「家族全員が狂言師。狂言は、かすがい」



◆貞教学区にお住まいの堀切義郎さん一家は、全員が狂言師。京都に伝わる三つの念仏狂言の一つ「千本糸

んま堂大念仏狂言」保存会に所属しています。



お父さんの義郎さんが初めて舞台に立ったのは、20代後半、千本糸んま堂引接寺(いんじょうじ)の息子さんが友人だったので、誘われて参加したのが狂言との出会いだそうです。狂言は大きく分けて能狂言と念仏狂言とに分かれており、昔は能狂言のスポンサーは大名で、念仏狂言はお寺でした。千本糸んま堂大念仏狂言の特徴は、まず他の狂言が無言劇(パントマイム)であるのに対し、演目のほとんどが有声劇(セリフあり)であるということ。面(おもて)を着け、他は悲劇的な題材が多い中、こちらは喜劇でも面白く、落語で言う「オチ」的なものもあり、セリフも京都弁でもとても分かりやすくなっています。

高校生になっても継続して活躍中。堀切さん一家にとってこの狂言の果たす役割は大きく、共通の話題、一家での行動、また、歴史に興味を持ち、幅広い世代の人との交流と、さらに広がっています。堀切義郎さんは、平成18年4月、京都市と財団法人京都市文化観光資源保護財団より、伝統行事芸能功労者として表彰されました。この狂言を一人でも多くの人に知ってもらうために、これからも家族全員力をあわせ、貢献したいと話されていました。

「もっとペタンクをひろめたい！」



◆ブルースカイ東山ペタンククラブを創設後、現在も会長を勤めておられ、3年前にはペタンク京都市民の会を設立された田中啓(あきら)さんをお訪ねしました。



戦、団体戦があるので夫婦、友人同士などでチームを組んで参加もできます。

田中さんはペタンクの魅力について、「誰でもできること、精神的要素が強く、人生そのもの。自分の気持ちが反映され、冷静さや平常心といったものが要求される」また「約7年前、フランスの競技会に参加して初戦突破し、当地の新聞に掲載されたことが、今までのペタンク人生の一番の思い出です」など熱く語られ、「この素晴らしいスポーツをもっと多くの人に経験してほしい、後継者を育て、自分ができるなら一競技者として熱中したい」という希望を述べておられました。

また、クラブでは、元貞教小学校の運動場を使用する感謝の気持ちとして、草刈、トイレ掃除などクラブ員が率先して行っています。地域の人たちとのつながりも、このクラブが大切にしていることです。

第6期塾長(東山区長)

平成13年10月に開設して以来、区民の皆さんと行政とのパートナーシップを一層発展させ、まちづくりの担い手や地域のリーダーの育成を目指して運営してきた塾も第6期目を迎えました。

第6期の塾生は、東山の現状を勉強し、「東山区を元気に」との思いで、東山・まち・みらい塾新聞を

作り上げました。完成した新聞はもとより、取材や記事を作成する段階で悩み、議論したその経験こそが塾生にとっての宝となり、地域にとっての宝であると考えております。

区民塾生と職員塾生がともに東山の活性化を考え実践する、こんな趣旨に一人でも多くの区民の皆様のご賛同とご協力の輪が広がれば塾長として、こんなに嬉しいことはありません。



みどころイッパイ！
東小路通

東大路通と平行して東小路通という所があります。東小路通？知らないぞ？そのような方のために説明します。この道は、既存の道を利用して作られた歩行者向けの道なのです。この道を作ったのは、東山・まち・みらい塾の1期生です。その東小路通を利用して作ったのが、東山散策（東小路通）マップ。区役所などで配布されているので目にしたことがある方もおられるかもしれません。マップに表示されている二つのコースのいずれも、実際にまちあるきをして設定しました。まさに汗と涙の結晶コースです。

その二つのコースのうち、川の手コースを紹介しします。川の手コースは、地下鉄東山駅一番出口から白川、花見小路通、三十三間堂、などを通り、最後を鳥羽街道で終えるコースです。観光地を見ないで、ただ歩くだけで、2時間半から3時間コースを歩くことができます。歩くのが不安な人は、北部（白川筋から大和大路通）、中部（宮川筋、泉涌寺道）、南部（本町通、深草流水遊歩道）と分けて歩いてみてください。

なさそうな大量のビリケンさんが悠々自適に座っている姿を見つけることができます。また、豊国神社から国立博物館に行く道では、城の下にあったのではないかと空想にふけてしまいそうなほどロマンを感じてしまう大きな石垣から柵に変わり、一気に霧囲気が西洋へ。そして、国立博物館を見ていると西洋に観光へ行った気分を味わえます。まさに、東山は、過去と現在、日本と西洋を味わえるお得な場所なのです。

さらに、東山は四季を感じることもできる場所です。冬が訪れても雪が降らないまちもあるなか、東山は、雪化粧された椿、京の町家、山がまの風情を一層際立たせています。これから訪れる春には、東山に色をつけ、春を呼び起こします。夏は、緑が色濃くなり、木陰で休むと木の葉同士が擦れ合う音がまるで海の中にいるよう。そして、秋は、紅葉がまが鮮やかなキャンバスになります。東山は、清水寺、祇園など観光地として栄えていて道路も整備され、現代的なまちに変わりつつあります。それにもかかわらず、目で四季の移り変わりや自然を全身で味わうことができます。新しいものを取り入れながらも昔のものを大切にするあたたかい人の心が東山のまちに四季を溶け込ませているのかもしれない。

東山・まち・みらい塾の
元気印



東山・まち・みらい塾には、年齢も職業も違う色々な人たちがいます。その中で、本宮愛理さんを紹介しします。本宮さんは、京都女子大学に通う大学生です。東山・まち・みらい塾に参加したきっかけを聞くと、「大学で所属しているゼミの教授に勧められて、市民がまちづくりについて関わっているのかを自分の目で見て直接学びたい」とい、何をするかさえわからずに入りました。」という本宮さん。いつもしっかりしていて、とても頼れるリーダーです。



そんな本宮さんに、塾に入ってから感想を聞くと、「まちあるきや観光ボランティアなど、様々な体験から東山を知ることができました。また、自分から行動して東山を知ろうと思、自分の考え方が前向きな考え方に変わったので、塾に入ってから良かったと思います。」とのこと。

記者からの、東山の好きなどころは？という質問には、「一歩足を踏み出せば、興味をそえられるものが道端にゴロゴロしている所です。」と答える本宮さんは、この新聞でも素敵な「東小路通」を紹介してくれました。



東山には、普段なにげなく通り過ぎていく場所にも、たくさんの歴史や伝統、そして自分だけが気づくことのできる魅力が隠れています。この新聞を読んで、皆さんが知らなかった東山の魅力を、一つでも感じてもらうなら嬉しいです。

遊んで発見！ 東山かるた



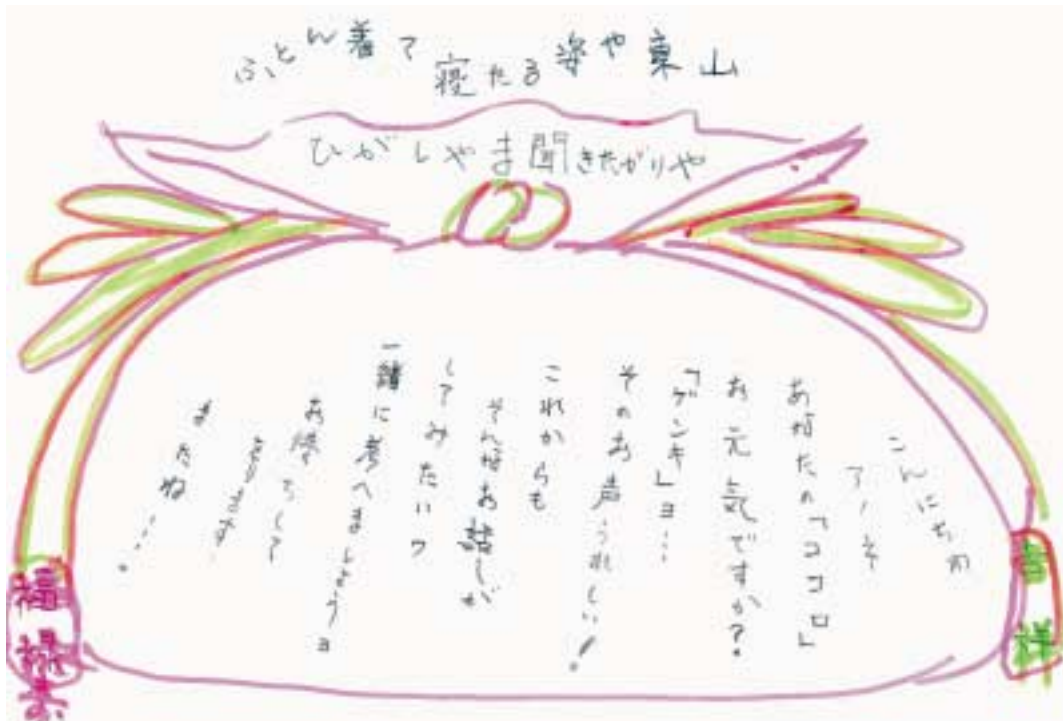
子供から大人まで年齢に関係なく楽しめる身近な遊びが、かるたです。そのかるたに東山を題材とした東山かるたがあるのはご存知でしょうか。東山かるたとは、東山のまち全体を博物館と見立て、隠れた名所や由来を地域の方々に知っていただくと共に、観光客の方々にも興味を持ってもらおうと東山・まち・みらい塾の第2期生が絵札も読み札も一枚一枚考え制作したものです。



まず、箱を開けて読み札を見てみましょう。「あ」は、『汗ふきつ選ぶ楽しさ陶器市』、「い」は、『新日吉神宮(いまひえ)は阿吽(あうん)

のお猿がお出迎え」、などテンポよく、東山が表現されているのが分かります。しかし、それが東山のどの地域のどこか分からない時があるかもしれません。その時は、付属の紙をご覧ください。地図が描かれ、かるたの題材となった場所が示されているので、読み札と照らし合わせて、どの地域のものなのか、調べることが出来ます。次に、絵札を見てください。原画も開催されているこの絵柄。一つ一つ塾生が考えて描いたもので手作り感に溢れています。眺めるとほんのりあたたかい気持ちになりますよ。最後に、絵札をくると裏に返してみましよう。絵札の裏には、その読み札の場所について詳しい解説がなされています。東山区民の皆さんも知らないその事象、場所の由来が説明されているので、知識が深まることは間違いありません。

この東山かるたはクロスワードを解いて応募すれば抽選で30名の方にプレゼントします。ぜひこの機会に手に入れて、童心にかえって遊んだり、絵札の裏を読んで知識を深めたり、といった楽しみ方はいかがでしょうか？



編集後記

新聞をお読みいただきありがとうございます。ごさいました。東山のまち・地域としての底力、あたたかさ、「東山ならではの」という魅力など、新聞づくりをしながら感じる事ができました。皆さんがこの新聞を読んで「やっぱり東山が好きやわあ」と感じてもらえたら塾生一同嬉しく思います。東山・まち・みらい塾第6期生はこの新聞編集を通じてさらにコミュニケーションを深められたと思います。東山・まち・みらい塾はこれからも塾生一丸となって「東山が元気になる」取り組みをすすめていきます。

ク★スワードに答えて東山かるたをもらおう!!!

東山・まち・みらい塾新聞クロスワード A B Cに入るひらがなを考えてクロスワードを完成させよう!!

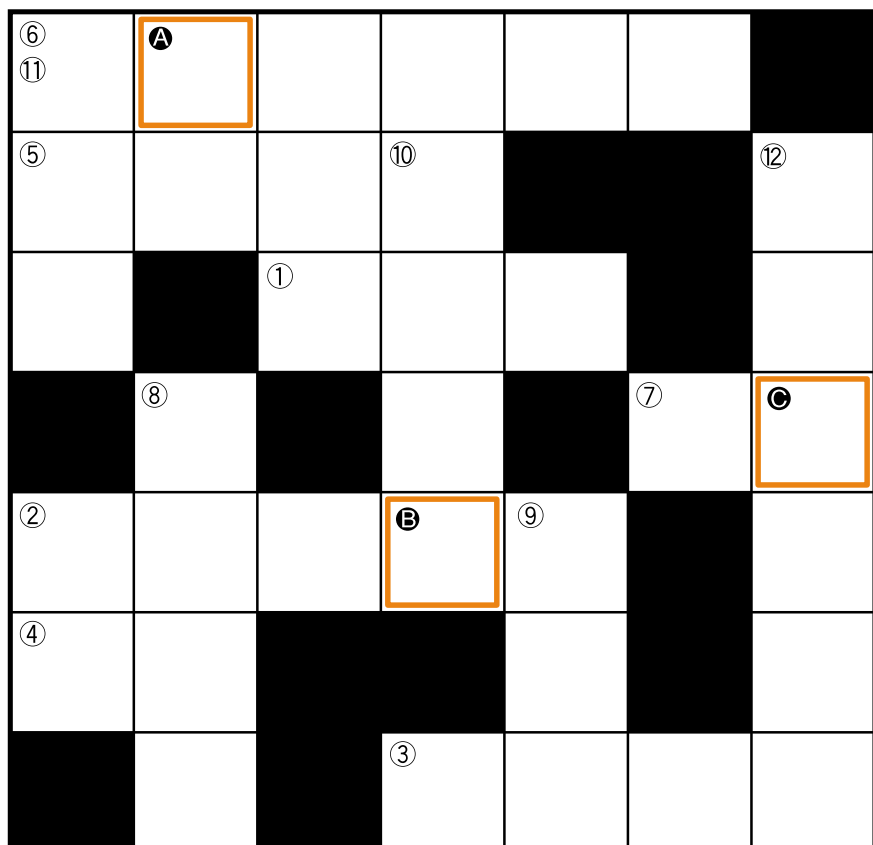
★ヨコのカギ

- ① 昨年清水寺で描かれた昨今の世相を表す今年の漢字「○○○」り
- ② 別名、八坂の塔で親しまれるお寺の名前は○○○○○
- ③ 祇園祭の期間中、祭事関係者が口にしないとされる野菜は○○○○
- ④ 六道とは天上の六種の世界を言い、「六道の○○」は六道への分岐点である
- ⑤ 珍皇寺のそばで販売されている飴の名前は幽霊○○○○○飴
- ⑥ 大晦日、八坂神社で招福除災を願って行われるのは○○○○○○○
- ⑦ もと妙法院の庭園で現在は東山武田病院の庭園である○○翠園

★タテのカギ

- ⑧ 建仁寺にある、俵屋宗達の代表作は「○○○○○雷神図」
- ⑨ 恋占いの石があることで有名な神社は○○○神社
- ⑩ 洛東中出身の元プロ野球選手、○○○○○の愛称で親しまれた衣笠祥雄さん
- ⑪ 舞妓が履く独特の下駄を別名○○○と呼ぶ
- ⑫ 五条坂で約500店を超える店が軒を並べる五条坂○○○○○○○

東山わくわくク★スワード



★答え 東山区がもっとA B Cになりますように!!

東山・まち・みらい塾新聞アンケート

● クロスワードの答えは、はがきかFAX (541-7755) で、住所・氏名・年齢のほか、下記のアンケートに①はい、②いいえ、③どちらともいえない、の中からお答えいただき、3月24日(消印有効)までに、〒605-8511(住所不要)東山区役所「東山・まち・みらい塾」係までお送りください。正解者の中から抽選で30名の方に、東山かるたをお贈りします。

※東山区ホームページからも応募できます。
<http://www.city.kyoto.lg.jp/higasiyama/>

アンケート

1. 今回この新聞を作成した、東山・まち・みらい塾という取り組みを知っていましたか。
2. この新聞を読んで、東山の魅力を再発見できましたか。
3. この新聞を、家族、友人、知人にも読ませたいと思えましたか。
4. 東山のまちづくりに興味がありますか。
5. 東山ならではの魅力を感じることがありますか。
もしよろしければ、その魅力をお聞かせください。

※その他、新聞を読んだ感想、お気づきになった点、東山への思いなどがあれば、御自由にお書きください。今後の、東山・まち・みらい塾の活動の参考にさせていただきます。